



虎ノ門の再開発現場

●建築業は日給月給のため収入が減る。だからみんな体調が悪くても無理して出勤する。賃金の底上げをしないと若い世代のなり手も増えない。(とび・47歳)

●来年からセネコンの現場は週休2日制になるが、今、新築の現場では週休1日制で工期通りに完了する見込みはなく、夜遅くまでの残業はないし休日出勤等で忙しいというに大丈夫なのだろうか？具体的な対策は？(電工・52歳)

●コロナ禍の影響でやはり仕事は厳しいです。そんななか、CCUSの管理者ID利用料が大幅に上がったのは大変なことです。登録を解除したいという方がいるのも理解でき

ます。町場でのメリットがないという声に私も同感です。地位向上と処遇改善を目指してきたいと思つて、組合活動に参加しています。メリットを作つていくにはこうしたいいのか仲間と共に考えて行動していかなければと強く

●コロナの影響でこの先現場があるのかイマイチ分からない。ないときは生活が苦しくなり、あるときは工に追われる。やり甲斐のある仕事とは言えない。かといってこれから転職も厳しいところか(配管・40歳)

●コロナによる仕事減、大手メーカー参入による仕事減、材料費等の値上げ、ネットによるお客様の知識の向上と安売りの材料普及、元請の支払い期間の長すぎ…。仕事での経費の支払い税金の支払い、生活費等、月々の出費は赤字の

●「工期は変わらず、賃金も上がらないので外注にも出せず、休むことも出来ない。週1休みは事務処理もあるもので休みではない。(内装・49歳)」

●現場での朝礼に作業所全員で集まり、密になることがあり、重要事項等の全員周知は

●「早く飲み行つて気分を変えたい。コロナがなくなつて仕事がなくなったら、生活できない。(50歳・塗装)」

●「目の前の現場に横浜ナンバ、柏ナンバ、熊谷ナンバの職人の車が並ぶ、そして私(練馬ナンバ)が鎌倉の現場に向かう。時間、経費、二酸化炭素問題、作業効率、意味がないロスが毎日山のよう

●「去年を思つて1割取手が下がり、何とかなるの収めましたが、これから年々も収入も減ると思つて考えてまいま

●「タイル・62歳)」

●「賃金が5年以上変わらな

●「その理由は、きりして

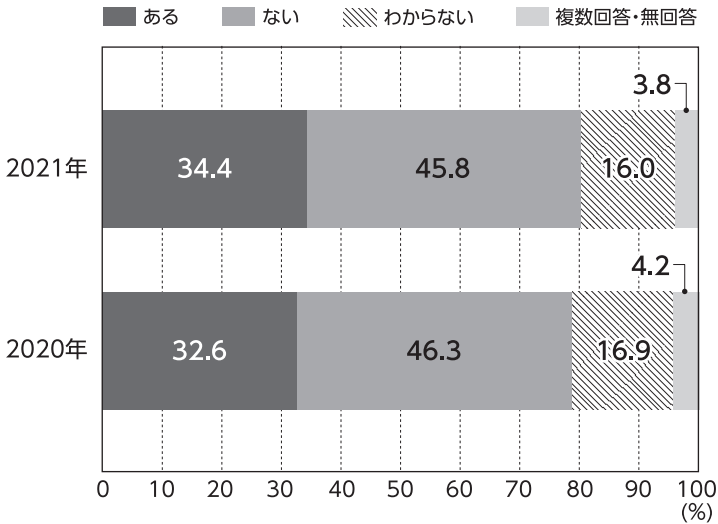
●「これは納得するが、理由が分からない。保険料ががらりと

●「(土木・53歳)」

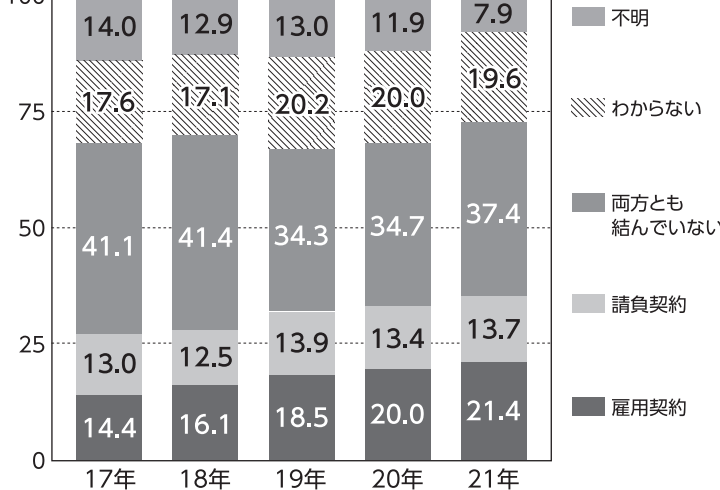
若者から選ばれる建設産業に大幅賃上げと労働環境の改善を

2月末賃金調査結果から

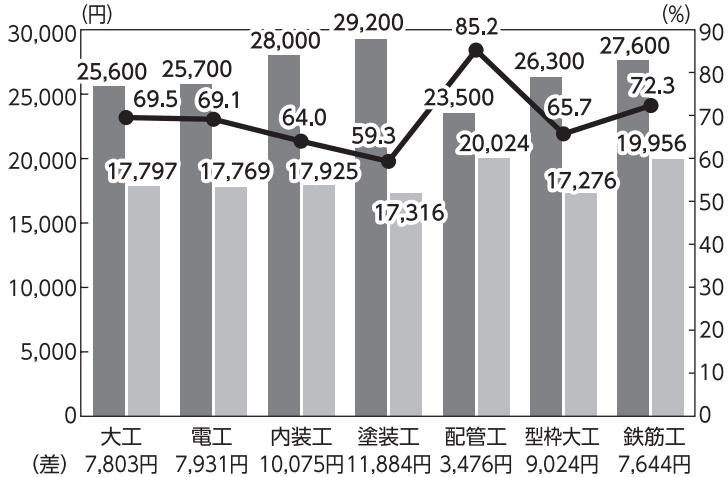
図表10 就業規則の有無 (2020年、2021年)



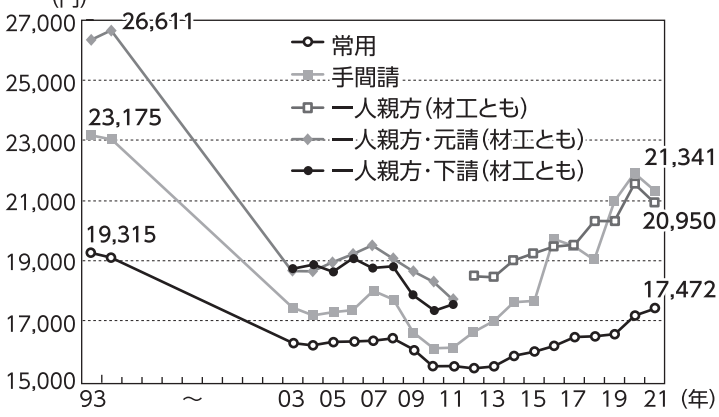
図表6 常用・手間請・一人親方の契約状況の推移 (2017年～2021年)



図表2 設計労務単価 (2021年度) と常用賃金 (平均、2021年) の差



図表1 常用・手間請・一人親方の働き方別にみる賃金の推移 (1993年～2021年)



注: 数字はピーク時の数値 (一人親方は94年、常用・手間請は93年) および、21年のもの。一人親方の働き方の区分が01年と12年に変更。01年には一人親方を元請 (材工とも) と下請 (材工とも) に変更。12年からは一人親方 (材工とも) を元請・下請区分せず一括。

設労単価の6、7割水準就業規則、36協定は漸進傾向

全建総連東京都連では2021年2月に実施した賃金調査の結果を報告集としてまとめました。昨年来のコロナの影響で、有効回答数は8330人にとまっています。「けんせつ」紙上では報告集の一部を紹介し、今後も、賃金調査に協力をお願いします。

図表1は働き方別の賃金の推移です。21年は前年より常用は賃金が上昇している一方、「手間請」と「一人親方」は減少しています。「常用」は回復傾向で推移しているものの、90年代の水準にはまだ差があります。

図表2は、主たる職種の2021年度の常用賃金と設計労務単価との比較です。いずれの職種でも、賃金は設計労務単価の6〜7割程度の水準です。

図表3は、東京の男子労働者常用・手間請・一人親方の平均年収の差です。20年は19年と比較すると56万円とその差が縮まっていますが、依然として157万円の開きがあります。

図表4は、21年の常用・手間請・一人親方の年収を5歳刻み年齢別に示したものです。40〜44歳がピークとなる賃金カーブを描いています。

図表5は、就業規則の有無です。「ある」「ない」を下回る現状ですが、前年に比べ「ある」は微増しています。

図表6は、法定福利費の受け取り状況です。21年で見る「全額支払われる」と「減額されるが支払われる」と「まったく支払われない」と「複数回答・無回答」の割合は、

図表7は、事業所形態別の年間支払賃金額です。「法人・厚生年金加入」が472万円

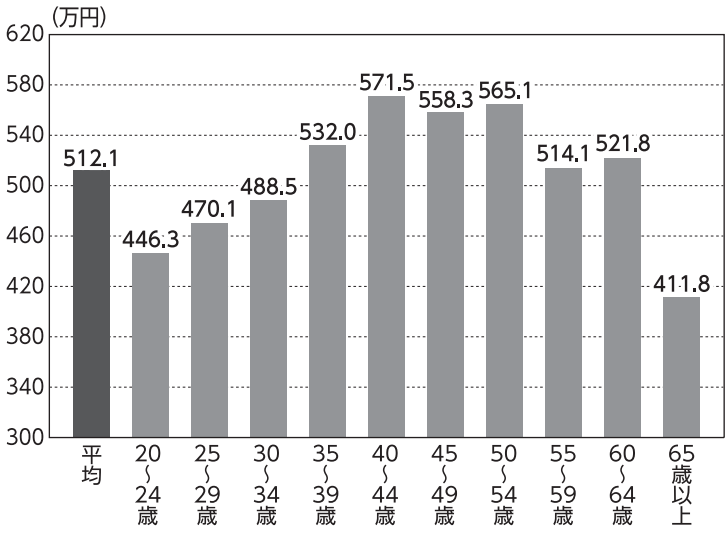
図表8は、法定福利費の受け取り状況です。21年で見る「全額支払われる」と「減額されるが支払われる」と「まったく支払われない」と「複数回答・無回答」の割合は、

図表3 東京の男子労働者との差 (2012年～2020年)

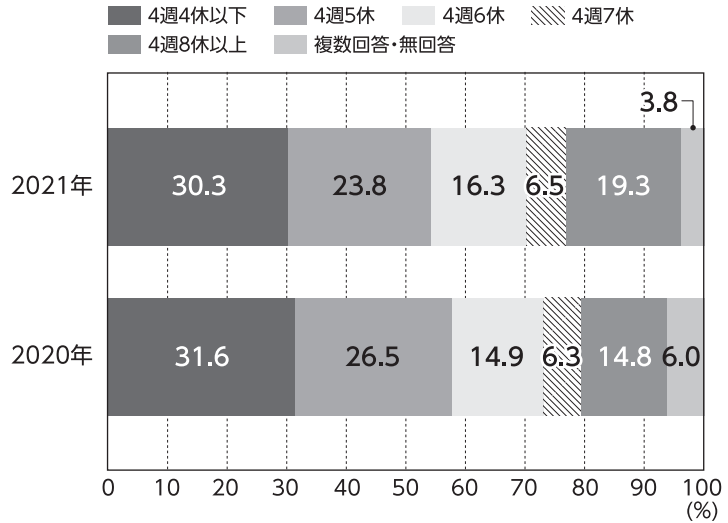
	東京の男子労働者 (1)	都連調査全体平均 (2)	差 (1) - (2)
2012年	6,473,400	4,083,543	2,389,857
2013年	6,434,700	4,148,972	2,285,728
2014年	6,780,800	4,222,500	2,558,300
2015年	6,921,900	4,256,412	2,665,488
2016年	6,772,300	4,356,367	2,415,933
2017年	6,853,500	4,589,382	2,264,118
2018年	6,951,600	4,664,730	2,286,870
2019年	6,919,500	4,786,069	2,133,431
2020年	6,611,500	5,038,794	1,572,706

注: 東京の男子労働者の数値は、「賃金構造基本統計調査」の「きまって支給する現金給与額、所定内給与額及び年間賞与その他特別給与額」から算出。最新政府統計に合わせ、都連調査の数値は20年まで。

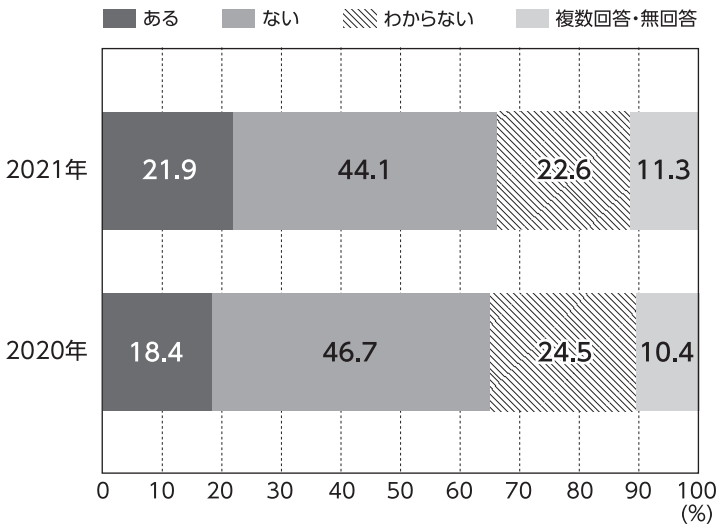
図表4 常用・手間請・一人親方の年齢別の年収 (2021年)



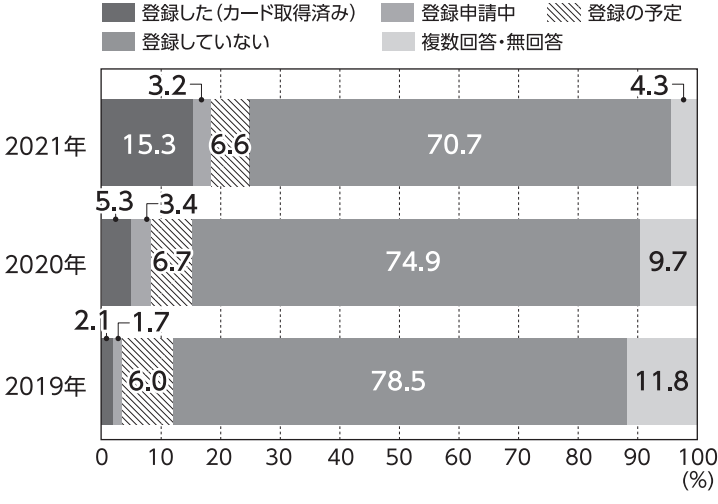
図表5 1ヵ月あたりの休日 (2020年、2021年)



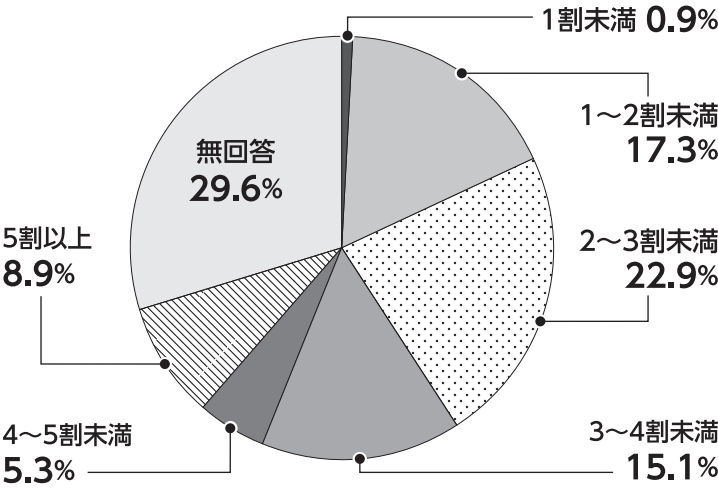
図表11 36協定の有無 (2020年、2021年)



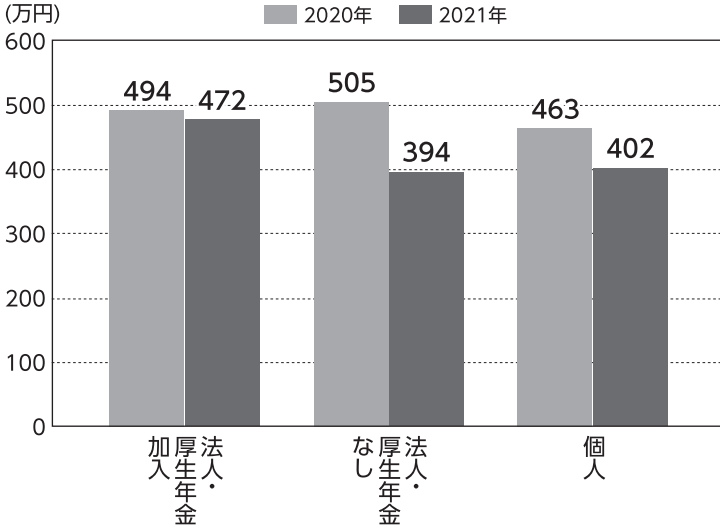
図表12 建設キャリアアップシステムへの登録状況 (労働者、2019年～2021年)



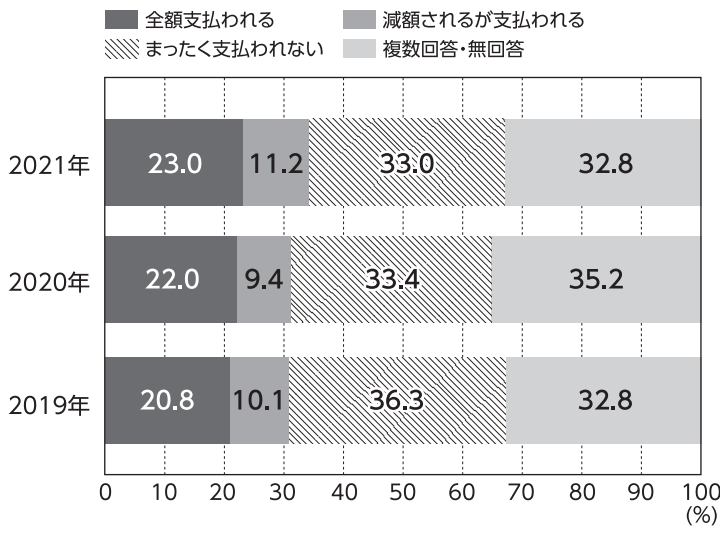
図表13 新型コロナの影響による収入の減少割合 (「労働者」、収入が「下がった」との回答のみ集計、2021年)



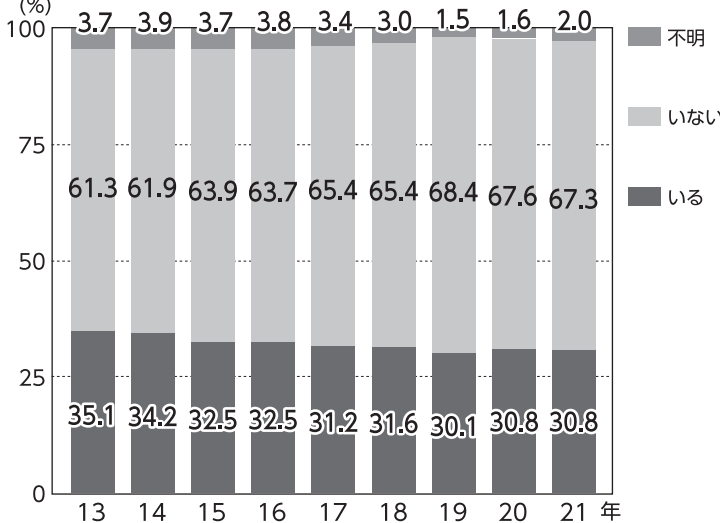
図表7 事業所形態別の年間支払い賃金 (2020年、2021年)



図表8 法定福利費の受け取り状況 (2019年～2021年)



図表9 後継者の有無の推移 (2013年～2021年)



詰将棋の解答

▲4一角成▲2三玉▲3一角
▲1二玉▲2三馬同金▲1
三歩▲同桂▲2銀同玉▲
2三飛成▲3二玉▲3二金
まで13手詰。

図表13は、「コロナ禍での収入への影響です。」「2割未満」が22.9%と最も多く

図表13は、「コロナ禍での収入への影響です。」「2割未満」が22.9%と最も多く